

# THE WALL STREET JOURNAL.

この記事複製もしくはプリントアウトして使用する場合は、その用途は個人的もしくは非営利、その他これに準ずる範囲内での使用に限られます。社内での利用、もしくは顧客への配布用として使用される場合は、必ず[www.djreprints.com](http://www.djreprints.com)（英語のみ）で事前に使用許諾を取得して下さい。

<https://jp.wsj.com/articles/fentanyl-has-spread-west-and-overdoses-are-surging-11618538121>

## 北米 鎮痛剤フェンタニルの過剰摂取、米西部で死者急増

昨年の薬物過剰摂取による死者数はコロナ死者数を上回った

By Ian Lovett | Photographs by Nick Otto

2021年4月16日 11:00 JST 更新

【サンフランシスコ】マイク・エンライト氏は、12月に3回、フェンタニルの過剰摂取状態に陥った。長年ヘロインを使ってきた彼は、麻薬をフェンタニルに変えてから、その使用量の限度が分からなくなったという。合成オピオイドのフェンタニルは強力な麻薬性鎮痛剤だ。

エンライト氏は、暮らしているテント近くの歩道に座り「麻薬作用は、はるかに強い」と語った。

米東海岸地域で長年悩みの種となってきたフェンタニルは現在、西海岸で過剰摂取による死者急増を引き起こしている。

ワシントン州キング郡監察医のデータによると、シアトル周辺では、2020年のフェンタニルの過剰摂取による死者が前年比57%増となった。暫定的なデータによれば、ラスベガス周辺では昨年、フェンタニルのような合成オピオイドによる死者が162%増加した。最近の報告では、ロサンゼルス郡のホームレスの間で、2020年1～7月の麻薬過剰摂取による死者数が26%増加したのも、フェンタニルの影響とされている。

サンフランシスコ市の状況は特に深刻で、2020年の薬物過剰摂取による死者は前年比61%増加し、過去最多の708人に達した。これに対し、同市での新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による昨年の死者は254人だった。

今年これまでの状況はさらに悪化しており、1、2月の過剰摂取による死者は135人に達している。このペースが続けば、死者数は年末までに800人以上になる。

サンフランシスコ市の監督委員会メンバーで、テnderロイン地区代表のマット・ヘイニー氏は「死者数や荒廃の状況は、われわれの目の前で一段と悪化している。フェンタニルが市に入り込んだことが、この前例のない急激な状況悪化に直結している」と語った。テnderロイン地区は、同市の麻薬まん延の中心になっている。

フェンタニルの作用はヘロインの50倍にもなり得るので、ごく少量の使用でも過剰摂取となる可能性がある。このため、フェンタニルが街中に大量に出回ると死者が増加傾向となる。ニューイングランド地方やラストベルト地帯で起きたのは、まさにこうした状況だった。これら地域では10年近く前に、しばしばヘロインへの混入の形を取って、フェンタニル汚染が始まった。

米東部の一部地域では、街中で手に入るオピオイド系人気薬物が、ヘロインからフェンタニルへと、ほぼ完全に置き換わった。

麻薬取締局（DEA）によると、米国にあるフェンタニルの多くは、メキシコの麻薬カルテルが中国から入手した前駆体を使って作ったものだ。それが東部で急速に広まった理由の1つには、同地域に昔からオピオイドの問題があったことがある。DEAサンフランシスコ支局を担当する特別捜査官のウェード・シャノン氏によると、西部は歴史的にメタンフェタミン（結晶状覚せい剤）が幅をきかせる市場だったが、現在は麻薬カルテルがそこでもフェンタニルを積極的に広めようとしている。その多くは偽の鎮痛剤という形でだ。

地元の当局者、非営利団体（NPO）の職員や麻薬使用者によると、サンフランシスコにフェンタニルが姿をみせたのは2015年前後だが、広く入手可能になったのは2018年以降だという。サンフランシスコでは、2018年から2020年の間に過剰摂取による死者数が173%増加した。

公衆衛生当局者によると、新型コロナのパンデミック（世界的大流行）は、過剰摂取の危機を悪化させている。孤立感、ストレスや失職は、多くの人々を薬物使用に追いやっている。ホームレス向けのシェルターやその他のシェアハウスが閉鎖され、中毒者は1人で薬物を使用することが増えた。その場合、過剰摂取をしても、助けてくれる人は誰もいない。



テnderロイン地区のテント生活者

PHOTO: NICK OTTO

疾病対策センター（CDC）の直近のデータによると、米国では昨年8月までの12カ月間で、推計8万8295人が過剰摂取で死亡した。2019年全体では、7万0630人が死亡していた。2020年は19年の記録を上回った可能性が高い。

CDCによると、フェンタニルを含むオピオイドは、2019年の過剰摂取による死亡の約70%に関わっていた。

サンフランシスコ市から支援を得て過剰摂取防止の取り組みを監督している「全米被害低減連合」のプログラム「DOPEプロジェクト」の責任者、クリステン・マーシャル氏は、「新型コロナの感染リスクを減らすための最良の方法は、他者と離れて孤立することだ。その一方で孤立は、過剰摂取による死亡のリスクを最大限に高めるものでもある」と述べる。

最近ではテnderローイン地区で、何十人かの人々が歩道沿いで薬物を使用したり、販売したりしていた。ある男性はプラスチック製の箱に腰掛け、あぶっているアルミホイルから出てくる煙を吸っていた。隣の人は気を失っていた。若い男女らは通りかかる人に近づき、「何がほしい？」と尋ねていた。

地元のNPO「グライド」の職員は、注射針や体拭きシートなどを提供していた。人々は職員の周りに集まり、特定のサイズの注射針やマスクを要求していた。彼らはとりわけパイプやアルミホイルを欲しがっていた。多くの使用者は、フェンタニルを注射するのではなく、煙にして吸入している。そうすることで、過剰摂取のリスクを下げられると思っているからだ。

グライドの被害低減プログラムの責任者、ジョン・ネグレテ氏は、「注射針の需要が減り、アルミホイルの需要が増えるという劇的な変化を目撃している。ヘロインの場合、通常は吸入という手段を取らせるのは難しい。ヘロインの無駄遣いになるからだ。しかし、フェンタニルはあまりにも強力だ」と話した。

ある女性が麻薬中毒患者に処方される拮抗（きっこう）薬ナロキソン（別名ナルカン）を求めてきた。彼女は先週16回分を使い切ってしまったという。DOPEプロジェクトによれば、サンフランシスコでのナロキソン投与回数は4300回で、2019年の2610回から増加した。

ヘロイン使用者のアンサル・エルモハメド氏は（フェンタニルによる）死者数が増加していることからナロキソンを持ち歩き始めており、過剰摂取の人物がいれば助けられるようにしているという。同氏はまた、自分の使用する薬物にフェンタニルが含まれていないことを確認するため、地域の診療所から試験紙をもらっているという。当局者によると、薬物使用者は自分が使う薬物にフェンタニル含まれているかどうかを知らないため、過剰摂取となるケースが多くある。

フェンタニル問題への対応方法について、サンフランシスコ市当局者の間で意見が対立している。前出テnderローイン地区代表のハイニー氏は、警察が同地区でもっと対応するよう望んでいる。



警察によると、テnderローイン地区は麻薬蔓延の中心地

PHOTO: NICK OTTO

サンフランシスコ市警察は昨年、テnderローイン地区で合計5.5キロのフェンタニルを押収しており、その量は2019年の1.2キロを上回っている。今年の押収量はさらに増えており、年初か



らの12週間で2.8キロに達している。それでも同地区では、地元警察署から数ブロックしか離れていない歩道で大っぴらに薬物を使用する人の姿が見られる。パトカーが通るが、止まることはまれだ。

サンフランシスコ市警のウィリアム・スコット本部長は、フェンタニルの密売業者が死者の増加を引き起こしており、事態を放置すべきではないと指摘する一方、警察は911番通報など他の優先事項にも対応しなければならず、全員を捕まえることはできないと述べた。

スコット氏は「この問題を根絶するため、できる限りの警察の資源を投入したいと考えているのか」との問いには、「その通り。しかし、それはできない」と述べた。

2019年に刑事司法改革計画担当の地方検事に選出されたチェサ・ブーダン氏は、逮捕してもその逮捕者の調書を書き上げる前に同じ街角で別の人物が薬物の売り込みを始めると指摘し、町の中を徘徊（はいかい）する薬物ディーラーを逮捕する意義に疑問を呈した。同氏は、サンフランシスコ市内の薬物汚染の拡大は、治療に重点を置く公衆衛生の問題として扱うべきだとの考えを示した。

同氏は「薬物中毒となり、自分のからだや自分の人生を破壊しても構わないと思う人々がいる限り、法執行機関に資源をいくら投入してもこの問題を解決することはできないだろう」と述べた。

---

あわせて読みたい

---

米建設業オピオイド危機、作業員の中毒急増  
米国のオピオイド危機、コロナ禍で深刻さ増す

---

## ピックアップ



国際

英空母群が東アジア進出、対中牽制と米軍支援へ

